

もっと知りたい

武者小路実篤

読んでみよう!

君はだれに共感できる?

青春小説『友情』

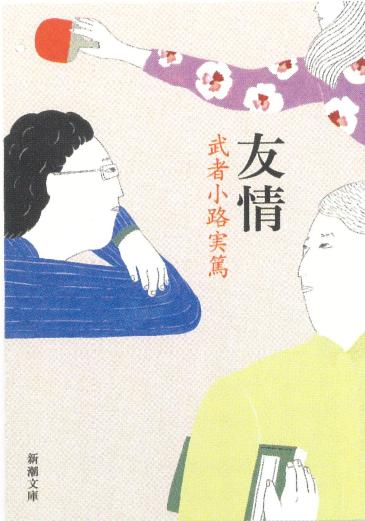
本当の友情とはなんだろう?

■ストーリー

作家の卵の野島は、友人の妹で明るく活発な杉子に恋をします。野島が慕う新進作家・大宮は、野島の作家活動と恋を応援しますが、なかなか进展しません。

そんな中、大宮は突然ヨーロッパへ勉強をしに行ってしまいます。野島は杉子に結婚を申し込みますが断られ、またもや杉子もヨーロッパ旅行に出かけました。

しばらくして大宮から、雑誌に発表した小説を見てほしいと手紙がきます。その内容とは…?



今でも手に入る新潮文庫『友情』

●読み解く4つのカギ

①卓球の試合で

勝つのはだれ?



②海を越えたラブレター、

だれからだれへ?



③ベートーヴェンの

マスクの運命は?



『友情』を書いたころの実篤

④「君よ、仕事の上で
決闘しよう」



『友情』……大正8(1919)年10月、実篤34歳のときに新聞小説として発表。
結婚する人も失恋する人も、若い人をはげましたくて書きました。

実篤作品の中で最もよく読まれているベストセラーですが、作家本人にはそれがとても意外だったそうです。

小説を のぞいてみよう!



野島にとつて恋とは?

彼（野島）は自分にたよるものをおもむいていた。自分を信じ、自分を讃美するものをおもむいていた。そして今や、杉子自身にその役をしてもらいたくなつた。杉子は彼のすることを絶対に信じてくれなければならなかつた。世界で野島程偉いものはないと杉子に思つてもらいだかつた。…（上篇五章）

大宮、野島の恋を批評する

…「君（野島）はあんまり人がよすぎる」大宮は笑いながら云つた。…
（野島）「僕の位置にいれば君はそんなあつかましいことは出来なくなる」

（大宮）「恋はあつかましくなければ出来ないものだよ」

（野島）「本当の恋はあつかましいものには出来ない」

（大宮）「ともかく恋も一種の征服だからね」…（上篇一八章）

恋する杉子の気持ち

…私（杉子）は死力を尽して運命と戦います。戦うと云うよりは運命を開こうと思ひます。私は静かに門のそとに立つて戸の（あの）自ずとあくのを待ちたくも思ひました。しかし今はその戸をたたけるだけたきたいと思ひます。…（下篇三章）

大宮、野島にエールを送る

わが友よ。…自分は君を尊敬している。君は打ちくだかねば打ちくだかれる程、偉大なる人間として、起き上つてくれるこことを僕は信じている。…（下篇一一章）



さあ、『友情』を
読んでみませんか？